

2021 年度事業報告

1. 会議

総会	11月12日				
臨時社員総会	11月11日				
定時社員総会	3月27日				
理事会	3月27日	7月3日	10月16日	12月25日	
常任理事会	3月11日	6月24日	10月1日	12月10日	

2. 学術集会 第 68 回学術集会 11 月 11 日～11 月 14 日 (富山) : ハイブリッド開催

3. 刊行物

機関紙 第 69 巻 1～12 号 Supplement 第 69 巻補冊

4. 臨床検査専門医 (機構・学会)、管理医 認定

臨床検査専門医認定試験	8月22日 (東京医科歯科大学)
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日
臨床検査管理医講習・認定試験	8月22日 (東京医科歯科大学)

5. 会員数

	2019 年度 (12/31 会費納入済数)	2020 年度 (12/31 会費納入済数)	2021 年度 (12/31 会費納入者数)
総会員数	3,244 名 (2,702 名)	3,418 名 (2,462 名)	3,223 名 (2,579 名)
正会員	3,013 名 (2,503 名)	3,155 名 (2,289 名)	3,006 名 (2,373 名)
(評議員)	(219 名) (215 名)	(209 名) (201 名)	(200 名) (200 名)
学生会員	65 名 (46 名)	93 名 (55 名)	59 名 (57 名)
名誉会員	38 名	37 名	36 名
功労会員	128 名 (115 名)	133 名 (81 名)	122 名 (113 名)
賛助会員	34 社 (34 社)	35 社 (35 社)	36 社 (36 社)

・各年度 12 月 31 日の会員数

6. 関連団体 (事業)

- 1) 日本臨床検査専門医会 第 31 回春季大会 (秋田) 5 月 21 日～22 日 : 完全 WEB
- 2) 日本臨床検査標準協議会 シンポジウム 1 月
- 3) 日本臨床検査同学院 (臨床検査士資格認定試験 : 二級・緊急・一級、遺伝子分析科学認定士資格認定試験 : 初級・一級、POCT 測定士認定試験)
- 4) 日本臨床化学会第 61 回年次学術集会 (福岡) 11 月 5 日～7 日 : 現地、事後オンデマンド
- 5) 日本医療検査科学会第 53 回大会 (横浜) 10 月 8 日～10 日 : 現地、一部オンデマンド
- 6) 第 31 回 WASPaLM World Congress (ウルグアイ) 11 月 4 日～7 日 : (2022/9/29～10/2 に延期)
- 7) ASCPaLM 第 16 回 ASCPaLM 会議 (インドネシア) : 2021 年 1 月 16 日 : オンライン開催
- 8) 認定検査技師機構、9) 日本専門医機構、10) 臨床検査振興協議会、11) 各種制度審議会・協議会

事業報告書

2021 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日まで

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

(1) 社会公共性への取組み

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。「臨床検査」は医療の根幹を成すものであり、また、個別化医療などに伴い新しい検査が急速に発展しています。今後「臨床検査」の重要性はますます高まっていきます。そんな中、2017 年医療法等の一部を改正する法律が成立し、検体検査の品質・精度の確保に係る基準の根拠規定が新設され、2018 年 12 月 1 日から施行されました。

以上の状況に鑑み、本学会は、学術集会や学会誌等での臨床検査の社会的役割について啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しています。

また、本学会の活動の基本である「臨床検査」という診療領域は、日本専門医機構により 19 ある基本領域のひとつと定義され、新しく基本領域臨床検査専門研修が 2018 年度からスタートし、2021 年度にはこの制度による初回の認定医試験が行われ、新たな専門医が 3 名誕生しました。継続して、社会から求められる有能な臨床検査専門医を育てています。

(2) 学会活動

学会の事業の一環として、①2021 年 11 月 11 日～11 月 14 日に富山市で第 68 回学術集会を開催、②誌名を「日本臨床検査医学会誌」(第 69 巻)とした学会機関誌の年 12 回刊行、③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」、「臨床検査管理医」試験実施、⑤臨床検査士及び細胞検査士に係る資格認定、などを行いました。2020 年 1 月に組織した「新型コロナウイルスに関するアドホック委員会」は、引き続き、検査法の選択と解釈など、社会に向けた提言を多く行いました。また、日本医学会連合による Japan CDC 創設の活動に参加しました。医療の地域偏在が社会的問題になっていることを受け、「地域の臨床検査に関するアドホック委員会」を組織し、地域の臨床検査の実態を調査、問題点を把握する活動を開始しました。チーム医療委員会がまとめた「臨床検査パニック値運用に関する提言書」を学会ホームページに公開し、パニック値の運用とパニック値の例を示しました。ガイドライン作成委員会では今回で 6 回目の改訂となる「臨床検査のガイドライン JSLM2021」を出版しました。そのほか、研究の奨励・研究業績の表彰、関係学術団体との連絡・協力、国際的な研究協力の推進など、幅広い活動を展開しました。

(3) 各種委員会活動 (別紙)

2 対処すべき課題

(1) 学会活動の活性化

社会の発展を支える人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発を支える臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学術集会の開催、機関誌「日本臨床検査医学会誌」の発刊、各種委員会の開催などの活動に加え、学会賞や、学術推進プロジェクトによる会員の研究活動のさらなる推進とともに、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成も急務です。臨床検査に関する社会への啓発活動と貢献、臨床検査に関する診療報酬の適正な評価を得るための活動も重要です。また、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体や他学会との有機的な連携も重要と考えており、継続的に議論しております。

新型コロナウイルス感染症については、引き続き、感染制御と社会経済活動のための検査の利用促進、診療支援、研究、教育・啓発それぞれで活動を活発に推進していきます。

(2) 社会が求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須です。検体検査管理加算(IV)、2016年から新規収載された国際標準検査管理加算などの高い評価ならびに臨床検査の品質・精度の確保に係る医療法等の一部改正の施行に伴い、臨床検査(室)を的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医を数多く養成することは本学会の責務と考えています。臨床検査専門医をめざす多くの専攻医を確保し育成する努力が求められます。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けております。また、新たに発足しました「地域の臨床検査に関するアドホック委員会」により、地域での臨床検査にも目配りをしていきます。

(3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

医療倫理の観点から、本学会では、2002年に「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を倫理委員会が中心となり作成、公表しましたが、「臨床研究に関する指針」が2008年7月に全面改正されたことに則って、2010年2月に新たな「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を公表いたしました。その後、2017年に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等が一部改正されたことから、再度の論議を経て、2017年12月、「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を公表し、その改訂版として2021年10月、「臨床検査を終了した既存試料(残余検体)の研究、業務、教育のための使用について」の見解を新たに公表しました。

また、2012年以降の学術集会において、全発表に利益相反状態の開示を義務づけています。役員や委員会委員長就任時、学術集会等での発表および論文投稿時の利益相反の報告やその取扱い等については、「医学研究の利益相反(COI)に関する細則」に従い、2015年度より実施しています。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、名誉臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕、アジア臨床検査医学会連合〔Asian Societies of Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2021年12月31日現在）：200名

3 役員（2021年12月31日現在） 23名

理事	村上 正巳	（理事長）
	東條 尚子	（副理事長）
	久谷 直人	
	宮地 勇人	
	山田 俊幸	
	小柴 賢洋	
	田部 陽子	
	古川 泰司	
	前川 真人	
	吉田 博	
	大西 宏明	
	下 正宗	
	長沢 光章	
	矢富 裕	
	藤井 聡	
	諏訪部 章	
	東田 修二	
	木村 秀樹	
	日高 洋	
	大澤 春彦	
	柳原 克紀	
監事	福武 勝幸	
	古田 耕	

4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実 記載すべき事項は、ありません。

2021 年度 日本臨床検査医学会 各種委員会活動報告（一部 2022 年度計画含）

1) 学術推進化委員会（委員長：萱場広之、担当理事：矢富 裕）

- ①2019 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の最終報告会を第 68 回学術集会にて実施（2021 年 11 月 13 日）
 - ・マイクロパーティクルを介した血管内皮障害の機序解明と動脈硬化性疾患リスクマーカーの探索：塩津 弘倫（九州大学）
 - ・SCCmec 型分類に資するメチシリン耐性表皮ブドウ球菌のゲノミクス研究：齋藤 良一（東京医科歯科大学）
 - ・炎症性腸疾患の重症度判定に有用なバイオマーカーの探索：岡田 光貴（京都橋大学）
- ②2020 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告を受理
- ③2021 年度 学術推進プロジェクト研究として 3 課題を採択
 - ・異常フィブリノゲンが創傷治癒に及ぼす影響とその評価法に関する研究：新井慎平（信州大学）
 - ・すべてのアミロイドーシスに対応可能な診断システムの構築：田崎 雅義（熊本大学）
 - ・小児白血病/リンパ腫の診断・予後因子・治療標的に関わる RNA パネルシーケンス解析の精度管理法の開発研究：渡辺 悟（国立成育医療研究センター）
- ④ 学術推進プロジェクト研究の募集要項の公募・選考方法に下記 3 点を追記することとした。
 - ・代表者と分担者の変更は原則として行わないこと。
 - ・やむを得ない理由で代表者と分担者の変更が必要な場合は速やかに事務局まで報告すること。
 - ・助成金の使用が当該研究課題以外や当該研究者以外に用いられるなど不適切に行われたと学術推進化委員会で判断された場合には、助成金の返還を含めて対応を求める場合がある。
- ⑤2022 年度 学術推進プロジェクト研究課題を募集（受付期間 2022 年 1 月 4 日-3 月 31 日）

2) 編集委員会（委員長：吉田 博、担当理事：吉田 博）

- ①投稿規定の検討および整備を行った。
- ②英文誌発行に向けて準備を行った[(1)J-STAGE 登載の手続き(クリエイティブコモンズの検討、電子版 ISSN の取得を含む)、(2)査読システムを検討し最終候補として ScholarOne Manuscripts を選定、(3)日本臨床検査医学会誌への投稿のうち英文誌への掲載にふさわしい論文を選定（現在 3 論文が決定）]
- ③査読承諾率の改善策として、査読依頼の際に従来の指名制から挙手制へと変更し、改善が認められた。

3) 教育委員会（委員長：橋口照人、担当理事：山田俊幸）

【RCPC（臨床検査領域講習 2 単位）開催】

第 76 回日本臨床検査医学会関東甲信越支部例会（2021 年 5 月 29 日（土）、例会長：下正宗（東葛病院）に合わせ、教育委員会主催 RCPC を開催した。

進行：五十嵐岳（聖マリアンナ医科大学）、出題：松本剛（信州大学）

【共催】

第 5 回医学生・研修医のための 臨床検査ハンズオンセミナー web 開催（2021 年 8 月 1 日（日）
主催：ワークライフバランス委員会、近畿支部）

【第 68 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画】（ハイブリッド開催）

- ・RCPC 1（臨床検査領域講習 1 単位）
日時：11 月 13 日（土）14：40～16：10
座長：松本 剛（信州大学）
- ・RCPC 2（臨床検査領域講習 1 単位）
日時：11 月 13 日（土）16：10～17：40
座長：上岡樹生（天理よろづ相談所病院）

- ・ Catch Up セミナー（臨床検査領域講習 3 単位（各 1 単位））（ハイブリッド開催）
 日時：11 月 14 日（日）13 時 10 分～16 時 10 分
 座長：山田俊幸（自治医科大学）、橋口照人（鹿児島大学）
 - 1) 五十嵐 岳 先生（聖マリアンナ医科大学）ここまでできる！現代の超音波検査 － 腹部超音波を中心に －
 - 2) 松村康史 先生（京都大学）新型コロナウイルス感染症に対する遺伝子検査体制構築の経験と課題
 - 3) 山田佳之 先生（東海大学）小児領域の検査のピットフォールとトピックス
- 【常設 e-learning について】
 4 つのコンテンツを準備（20 分＋確認テスト 5 問）
 - ① M 蛋白の検出と免疫固定法（自治医科大学）
 - ② 症例から学ぶ細胞性免疫不全患者の呼吸器感染症（京都大学）
 - ③ 骨髄像：解読の要点（東京大学）
 - ④ 症例から学ぶ敗血症性 DIC（鹿児島大学）
- ・ 日本専門医機構基本領域臨床検査専門医（診療実績証明として利用可）・日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医
 ※ 受講単位：1 コンテンツ当たり 0.4 単位 ※ 1 コンテンツ 1,100 円（税込）
 ※ 委託会社「エデン株式会社」

4) 臨床検査点数委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）

- ① 委員会開催： 第 1 回委員会：4 月 12 日、第 2 回：11 月 11 日（いずれも WEB 開催）
- ② 他委員会との連携：
 - ・ 2020 年第一回委員会で提案された、臨床検査のガイドライン作成委員会との連携活動について、診療報酬上の評価を踏まえた「あるべき臨床検査室の姿」に関する一節を設けるという提案については、2021 年版ガイドラインで採用され、掲載された。
 - ・ 診療報酬に関わる、内保連外保連 AI 診療検討委員会の開催があり（2020 年 7 月、2021 年 4 月）、当委員会経由で、統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会より、臨床検査における AI 活用の情報提供がなされている。
- ③ 令和 4 年度診療報酬改定に向けた活動
 - ・ 日本臨床検査振興協議会への参加：診療報酬改定小委員会が 4 回開催された（2020 年 7 月 31 日、10 月 5 日、2021 年 1 月 18 日、4 月 2 日）。2021 年 3 月 11 日に厚生労働省保険局との第 1 回勉強会を行った。当初 43 件の要望があったが、提案取り下げがあり、最終的には本学会から 35 件の提案が選択された。5 月 28 日に厚生労働省との第 2 回勉強会が行われ、最終的に要望が決定された。
 - ・ 内保連関連：各領域別委員会の開催（感染症、神経、血液、他）、提案書最終書式の配付（2021/2/25）に引き続き、4 月末に要望提案書が提出された。この後、提案内容の微調整を経て、内保連ヒアリング（5 月 13 日）、社員総会（6 月 29 日）が開催された。
 - ・ 内保連より厚生労働省への要望書提出（6 月 30 日）の後、学会と厚労省とのヒアリングが 8 月 2 日に行われた。
 - ・ 提案は、医療技術評価分科会、中医協での審議を経て対応が評価され、今期の提案については、未掲載 2 件のうち 1 件、既掲載 33 件のうち 15 件で要望への対応がなされた。
- ④ 日本医師会・疑義解釈委員会への対応
 - ・ 月 2 回開催され、特に供給停止予定の体外診断薬連絡に対して、委員会への意見収集がなされているが、今年度は、異議申し立ては行われなかった。
- ⑤ 新規保険収載項目の情報提供
 - ・ 日本臨床検査薬協会との共同作業により、新規保険収載項目の情報を監修し、会員メール、日本臨床検査医学会誌、ホームページを通じて会員に提供している。

5) 学会賞委員会（委員長：大林光念、担当理事：田部陽子）

- ①2021年8月17日（火）にZoom開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（菊地良介氏）、検査・技術賞（該当者なし）、若手研究者奨励賞（鈴木敦夫氏、藤森祐多氏、相原正宗氏、水野元貴氏、川元康嗣氏）、優秀論文賞（松本信也氏、越智小枝氏）。
- ②日本臨床検査医学会学会賞募集要項の文言一部変更について、理事会での審議を依頼した。
- ③若手研究者奨励賞と優秀論文賞の選考方法に関して、理事会での審議を依頼した。

6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：前川真人）

- ①標準化委員会作成の「学生用共通基準範囲」の株式会社医薬情報研究所によるドラッグノート2022へ転載申請を承認。
- ②10月11日にZoom会議を行い、Cペプチドの標準化に向けてのプロジェクトを、日本臨床化学会、日本臨床検査薬協会と共同で行うことが提案され、問題点などを議論した。IFCCから値付けされた標準物質、測定用の試料などが提供されるのか確認中。

7) 精度管理委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：前川真人）

- ①2021年度（2021年4月1日、2022年3月31日）CAPサーベイのまとめ
 - (1) 参加施設
計200（2020年対比、合計77施設増）、具体的には、6施設減かつ83施設増であった。新規参加の83施設の理由として、COVID-19関連が多かった。参加中止数は6施設であり、理由は費用の問題が多かった。
 - (2) 特筆すべき問題（配送、試料、評価、他）
 - ・12月の理事会報告（データは2021年11月30日付）以降、サーベイ試料の国際輸送・国内配送に関する問題ならびに試料の問題は発生しなかった。
 - ・CMP-Bサーベイ尿比重の評価について、CAPサーベイ日本事務局の指示どおり測定法コードを適正コードで報告したところ、ピアグループが形成されず統計処理されなかったとしてクレームがあった1施設に、国内施設統計による個別評価の対応を行った。
 - ・2020年のFH9-B以降3回に渡るサーベイで、未だにRBCおよびHbの値が高めに出るとして問い合わせを受けた。調査の結果、値が高値傾向である施設と±2SDI以内に収まっている施設が混在することから、施設依存の結果である可能性もあり、モニタリングを継続する。
 - (3) 新規参加施設獲得のための訴求活動
 - ・2020年10月「2021年度参加申し込み案内」をカタログと共に約800施設へ送付した。
 - ・「臨床検査室グローバルニュース」秋号と冬号（2020年10月・2021年1月発行）にCAPサーベイの案内を掲載、同じく春号と夏号（2021年4月・2021年7月発行）にはCOV2およびCOVAGサーベイに焦点を当てた「CAPサーベイ Express」を掲載しCAPサーベイ参加の啓発を行った。
 - ・COV2Eサーベイを急遽リリースにつき、日本臨床検査医学会と日本臨床微生物学会のウェブサイトにも案内を掲載した。
- ②臨床検査グローバルニュース
季刊誌として年4回ペースで発行している。委員の校正がスケジュール的に困難となっていることが常態化しているため、編集の流れを見直し中である。

8) EBLM委員会（委員長：片岡浩巳、担当理事：大西宏明）

- ①第68回学術集会（富山）にて、EBLM委員会企画・教育セミナーが以下の内容で開催された。
テーマ：「臨床検査領域に対する統計・機械学習的アプローチ」座長：片岡浩巳（川崎医療福祉大学）
講演内容：

- (1) 臨床検査の診断的有用性の評価法：その統計理論と使い方の実例 市原清志（山口大学）
 - (2) クラスタ解析と次元圧縮事例 佐藤正一（国際医療福祉大学）
- ②新年度 EBLM 委員会の委員長は、国際医療福祉大学（新年度から順天堂大学）の佐藤正一先生が担当される予定である。

9) 倫理委員会（委員長：横崎典哉、担当理事：古川泰司）

- ①2021年6月岩手医科大学主管で開催された第63回医学系大学倫理委員会連絡会議（学術集会）において委員長が「残余した臨床検査に供した検体の取扱いについて ～日本臨床検査医学会の見解を中心に～」の講演を行った。
- ②「臨床検査を終了した既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について 日本臨床検査医学会の見解 2021年改訂」の原案を作成した。2021年10月16日開催の理事会にて承認され、学会ホームページおよび日本臨床検査医学会誌69巻10号巻頭面に会告として公表した。
- ③第68回日本臨床検査医学会学術集会にて講演会「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の施行にあたって」を企画し開催した。

10) 利益相反委員会（委員長：横田浩充、担当理事：古川泰司）

- ①2020年度 COI 自己申告書未提出者（14名）について催促状の対応（2020.12）を行ったが、なお6名が未提出であり再催促（2021.3）を行った。最終的に未提出2名となり、この2名については対象の委員会委員長へ次回委員会委員推薦の際に推薦不可である旨、事務局よりお伝えした。
- ②2021年1月より当学会の機関誌名が日本臨床検査医学会誌へ変更となった。
これにともない、学会 HP に掲載されている「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」「医学研究の利益相反（COI）に関する細則」「学会誌 論文投稿時の COI 自己申告書」の機関誌名の部分を日本臨床検査医学会誌に修正（2021.4）した。
- ③演題発表時の COI 開示書式（様式 1-ABC）について、⑨ 試薬・機器・役務等の供与を追記および一部文言の修正を行った。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：大西宏明、担当理事：吉田 博）

- ①2021年12月に改訂版である臨床検査のガイドライン JSLM2021 が発刊された。
今版では、「あるべき臨床検査室の姿」の新項目の追加や「パニック値」の項目の改訂を行ったほか、本文中の基準値や図表の表現の統一などの整備を行った。
- ②今年度は計4件の転載許諾依頼があり、内容を確認の慎重に検討し許諾した。
- ③ホームページに、過去のガイドラインへの質問に対する対応を明記した。
- ④11月13日に行われた日本医療機能評価機構による【Minds】第23回診療ガイドライン作成に関する意見交換会に吉田担当理事と大西委員長が参加した。
- ⑤日本泌尿器科学会より依頼された「診療科・職種横断的なマニュアルやガイドラインの作成についてのアンケート」について、医療安全委員会との共同で各委員にアンケートを行い、取りまとめた結果を回答した。
- ⑥2022年度の第69回学術集会の委員会企画として、ガイドライン JSLM2021 に関するテーマで考案している。

12) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：✕谷直人）

- ①JLAC10 コードについて、臨床検査項目では、分析物コード；新規62件、変更19件、削除5件、識別コード；新規14件、材料コード；変更3件、測定法コード；新規2件、変更1件、結果識別（固有）コード；新規436件、変更25件、削除31件を実施した。生理・健診関連項目では分析物コード；新規129件、識別コード；新規4件を実施した。
- ②「JLAC コード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にして JLAC コードの付番を行っている。2021年は、399件の付番を行った。

13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

- ①JACLaS 展示会において日本臨床検査医学会のブースを設営
 - ・本学会ホームページの「新型コロナウイルス検査の課題と本学会の対応」を印刷、配布
 - ・QRコードを掲示しホームページの上記掲載内容をご案内
 - ・年次学術集会ポスターを掲示、宣伝活動を行った
- ②11月11日臨床検査を宣伝する日
 - 一般企業と協賛しweb上で記念日や検査についての宣伝活動を行った
- ③五十嵐岳委員を中心にレジデントノート誌に「検査のTips」を連載。4年を経て同誌ではまれに見る長寿企画となっている。
- ④11月13日に委員会を開催、②、③の継続を了承。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：長沢光章）

- ①ISO 15189認定の現状に関するアンケート調査の結果について日本臨床検査医学会誌に投稿し、掲載された。
- ②学術集会時の11月12日に委員会を開催し、次年度以降の活動計画について討議した。

15) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）

- ①倫理委員会で改訂中の「臨床検査を終了した 既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について」、ISO/TC 215/SC 1 の新規作業項目提案に対し、コメント提出
- ②日本医学会医学用語管理委員会からの遺伝学用語改訂の最終報告に承認と回答。
- ③リキッドバイオプシー検査（がんゲノム医療、出生前検査）の質保証について検討中。
- ④がんゲノム医療推進コンソーシアム運営会議（全ゲノム解析等実行計画など）、着床前染色体異数性検査、日本医学会ガイドライン改定（診療録記載等）、アレイCGH法の保険収載などについて意見交換。
- ⑤日本病理学会と合同WGで策定した「がんゲノム検査全般に関する指針」を近日公表予定。
第69回年次学術集会（2022年度）にて病理学会との共催シンポジウムを計画。
- ⑥第69回年次学術集会（2022年度）にて委員会企画シンポジウムを計画。

16) 国際委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：宮地勇人）

- ①2021 年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し、松尾英将、波野史典の 2 氏を受賞者として推薦した。
- ②Laboratory Medicine Congress & Exhibition (LMCE) 2021 (Sept 30-Oct 2, 2021、Songdo Convensia, Incheon, Korea にて開催) における Asian Symposium 「COVID-19 Laboratory Diagnosis in Asian Countries」のシンポジストとして三枝淳氏（神戸大学）を推薦した。
- ③World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2022 (Sep 29-Oct 2, 2022、ウルグアイで開催予定) における ASCPaLM セッション「Leadership of Clinical Laboratory for COVID-19 pandemic to share experience from each countries」に、宮地勇人 理事を演者として推薦した。東京オリンピック・パラリンピック大会でのコロナ検査について発表の予定。

17) 医療安全委員会（委員長：藤井 聡、担当理事：大西宏明）

- ①2021 年 11 月 12 日（金）10：00-12：00 第 68 回学術集会にシンポジウム（委員会企画）「ウィズコロナ・アフターコロナの臨床検査：何が変わり、何が変わらないのか」を開催した。
《演者：森兼啓太先生、上原由紀先生、長尾美紀先生 座長：大西宏明、藤井 聡》
200 名以上の参加（web）があり、盛会だった。
- ②第 68 回学術集会会期中に医療安全委員会を開催した。
次年度の委員会企画について検討した。

③その他

「医療安全全国フォーラム 2021」に藤井委員長がオンライン参加した。診断エラーとその対応の講演で、パニック値伝達不備問題が取り上げられていた。

18) 会則改定委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：東條尚子）

①名誉会員の選出について規定(細則)を改定した。

19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

①「在宅医療」、「タスクシフト」、「COVID-19 対応」におけるチーム医療に関するテーマを検討している。

②医療安全の面から医療現場に反映させる方向で「パニック値の運用」に関する提言をまとめ公開した。今後、「施設間のパニック値の設定の差違」、「提言を受けた現場対応の変化」について全国調査を実施する予定である。

③第 69 回学術集会において「地域連携における臨床検査の関わり（仮）」と題する委員会企画として予定する。

20) 学術集会企画委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：小柴賢洋）

①第 71 回集会長推薦の支部候補として北海道支部と近畿支部を理事会に答申した。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで、2021 年度（2021 年 4 月～2022 年 3 月）に 18 件の相談（新規 17 件、継続 1 件）に対応した。 2022 年度も現体制でサポートセンター活動を継続する（担当：千葉泰彦 委員）

②第 5 回 ハンズオンセミナーを Web 開催した（2021 年 8 月 1 日（日）13 時～17 時、共催：日本臨床検査医学会近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会）。2022 年度は、8 月 21 日（日）に Web 開催を予定している（担当：西川真子 委員）

③第 68 回日本臨床検査医学会学術集会でワークショップ（RCPC challenge、臨床検査医 交流・向上ワーキンググループ企画）を実施した。 2022 年度は、第 69 回日本臨床検査医学会学術集会で、臨床検査医 交流・向上ワーキンググループ企画によるワークショップを開催する（担当：増田亜希子 委員）

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（委員長：大西宏明、担当理事：小柴賢洋）

①学術集会中の 11 月 12 日（金）に、2021 年度第 1 回委員会が開催された。

患者参画型の臨床検査、保険診療における AI に基づく臨床検査の導入、臨床検査データベースの構築などに関して議論が行われ、EBLM 委員会、臨床検査項目分類コード委員会等の関連委員会へ協働を打診することとなった。

23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会（委員長：柳原克紀）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況に応じながら、下記の提言を公表した。

①2021 年 5 月 27 日：新型コロナウイルス変異株検査に対する考え方

②2021 年 8 月 24 日：COVID-19 における抗体検査についての基本的な考え方（改訂版）

現在、提言の体系化および内容・用語の統一を行い、変異株についての考え方や非医療従事者に対する啓発等、新たな提言を追加した更新版を公表予定である。

24) 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会報告

（委員長：小谷和彦、担当理事：山田俊幸）

- ①委員会（各支部担当者の参集）を開催し、臨床検査専門医の地域分布に関する情報収集の体制づくり、および地域医療における同専門医の貢献の内容について検討することについて話し合った。
- ②これを踏まえて、第 69 回学術集会において委員会企画を予定する。

25) 受験・更新資格審査委員会（委員長：三宅一徳）

- ①2021 年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。
- ②2022 年 1 月 1 日付けでの臨床検査管理医、学会臨床検査専門医の更新資格についての審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

26) 試験委員会（委員長：山田俊幸）

- ①第1回日本専門医機構認定臨床検査専門医試験ならびに第37回日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医試験を8月22日に東京医科歯科大学で実施した
- ②第13回臨床検査管理医講習・試験を8月22日に東京医科歯科大学で実施した。

27) 2020・2021年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：東田修二）

- ①臨床検査専門医試験(学会専門医として第 38 回、機構専門医として第 1 回)を 2021 年 8 月 22 日に東京医科歯科大学で実施し、新規 9 名（うち 3 名が機構専門医）、科目再受験 3 名の計 12 名が受験した。
- ②判定会議を 8 月 31 日に開催し、機構専門医 3 名と学会専門医 7 名(うち再受験 3 名)の計 10 名を合格とした。この判定は 9 月 10 日の臨床検査専門医・管理医審議会で承認された。
- ③機構専門医 3 名の合格は 10 月 18 日の日本専門医機構理事会で承認された。

28) 2020・2021 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

- ①第 13 回臨床検査管理医 講習会・認定試験を 8 月 22 日に東京医科歯科大学で実施し、22 名が受験し全員が合格となった。

29) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2022 年度専攻医募集用の研修プログラムの一次審査を行った。
- ②2022 年 1 月付機構認定専門医更新の一次審査を行った。
- ③更新単位となる講習会の認定を行った。